

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第3部門第1区分  
 【発行日】平成19年9月13日(2007.9.13)

【公表番号】特表2003-509320(P2003-509320A)  
 【公表日】平成15年3月11日(2003.3.11)  
 【出願番号】特願2001-523329(P2001-523329)  
 【国際特許分類】

**C 0 3 C 13/06 (2006.01)**

**D 0 1 F 9/08 (2006.01)**

【F I】

C 0 3 C 13/06

D 0 1 F 9/08 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成19年7月23日(2007.7.23)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 以下を含む1200 以上の最大使用温度を有する繊維：

$\text{SiO}_2 > 64.25$  重量%

$\text{CaO} > 18$  重量%

$\text{MgO} < 17$  重量%

であって、モル%でのMgOの量は、モル%でのCaOの量よりも多く、また $\text{SiO}_2$  過剰は21.8モル%以下である当該繊維、

ここに $\text{SiO}_2$  過剰とは、すべてのCaOが $\text{CaO} \cdot \text{MgO} \cdot 2\text{SiO}_2$  として結合し、すべての $\text{ZrO}_2$  が $\text{ZrO}_2 \cdot \text{SiO}_2$  として結合し、残りのMgOが $\text{MgO} \cdot \text{SiO}_2$  として結合し、そして如何なる $\text{Al}_2\text{O}_3$  も $\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot \text{SiO}_2$  として結晶化するものとして計算された残りの $\text{SiO}_2$  の量である。

【請求項2】 以下を含む請求項1記載の繊維：

$\text{CaO} < 21$  重量%。

【請求項3】 以下を含む請求項2記載の繊維：

$\text{CaO} < 20.5$  重量%。

【請求項4】 以下を含む請求項1乃至3のいずれか1項記載の繊維：

$\text{CaO} > 19$  重量%。

【請求項5】 以下を含む請求項4記載の繊維：

$\text{CaO} < 19.5$  重量%。

【請求項6】 以下を含む請求項1乃至4のいずれか1項記載の繊維：

$\text{MgO} > 14.25$  重量%。

【請求項7】 以下を含む請求項6項記載の繊維：

$\text{MgO} > 14.75$  重量%。

【請求項8】 以下を含む請求項7項記載の繊維：

$\text{MgO} > 15.25$  重量%。

【請求項9】 以下を含む請求項1乃至8のいずれか1項記載の繊維：

$\text{MgO} < 16$  重量%。

【請求項10】 以下を含む請求項1乃至9のいずれか1項記載の繊維：

$\text{SiO}_2 \quad 65 \pm 0.5$  重量%

C a O 20 ± 0.5 重量%

M g O 15 ± 0.5 重量%。

【請求項 11】 以下を含む請求項 1 乃至 9 のいずれか 1 項記載の繊維：

S i O<sub>2</sub> 64.5 - 64.7 重量%

C a O 19.5 - 20.2 重量%

M g O 15.5 - 15.6 重量%。

【請求項 12】 以下から成る請求項 1 乃至 11 のいずれか 1 項記載の繊維：

C a O 18.7 から 20.2 重量%

M g O 14.47 から 15.9 重量%

S i O<sub>2</sub> 64.5 から 65.1 重量%

A l<sub>2</sub> O<sub>3</sub> 0 から 0.56 重量%

及び不可避免的な混入不純物。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0005

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0005】

過剰 S i O<sub>2</sub> 数値は、すべての C a O が C a O ・ M g O ・ 2 S i O<sub>2</sub> として結合し、すべての Z r O<sub>2</sub> が Z r O<sub>2</sub> ・ S i O<sub>2</sub> として結合し、残りの M g O が M g O ・ S i O<sub>2</sub> として結合しているものとして計算される。出願人はまた、如何なる A l<sub>2</sub> O<sub>3</sub> も A l<sub>2</sub> O<sub>3</sub> ・ S i O<sub>2</sub> として結晶化すると仮定している。残りの S i O<sub>2</sub> を過剰 S i O<sub>2</sub> と称する

。

本発明は、図面を参照しつつ以下の記述中の例示によって説明される。